

2011年度 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」報告書
OSUSOWAKE Project [東日本大震災被災地支援企画OSUSOWAKE DIALOGUE報告]

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程2年 丸野遥香

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程2年 横山望

慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻 修士課程2年 松尾愛子



はじめに ～OSUSOWAKE Projectとは～

OSUSOWAKE Projectとは、社会問題の解決方法としてチャリティという欧米の概念ではなく、日本の伝統である「お裾分け」(別称:福分け)文化に着目した社会貢献の形を提案するプロジェクトです。

OSUSOWAKEマインドを広めることで、支援する人/支援される人という関係から、幸せをシェアする関係を生み出します。そして、多くの方がコミュニティの課題に対して、自分のリソースを活用し

OSUSOWAKE アクションができるようネットワーク支援等を行うことを目的としています。このたび、2011年3月11日の東日本大震災をうけ、被災地支援企画とし「OSUSOWAKE DIALOGUE」を2011年4月6日に開催しましたので、ご報告させていただきます。

■OSUSOWAKE Project HP→<http://www.wix.com/osusowake/welcome>

■シンポジウムの様子が日本財団のブログに紹介されました

→<http://news.canpan.info/2011/04/osusowake-project.html>

OSUSOWAKE DIALOGUE報告

1) 目的:

OSUSOWAKE Projectでは、東日本大震災支援活動して、自分自身に何が出来るか考えアクションにつなげるための会「OSUSOWAKE DIALOGUE」を開催することになりました。被災地の現状について詳しいゲストをお呼びし、ゲストの方と参加者の皆様との間で情報やアイデアの交換を通じ、次なる支援活動につなげることを目的としています。

2) 日時: 2011年4月6日(水) 19時～21時 18時50分開場

3) 場所: Mita-Habitat 東京都港区三田3丁目1-7三田東宝ビル4F

4) ゲスト: 澤井史郎 様 福島県いわき市立湯本第二中学校 校長
山川 勇一郎 様 NPOホールアース研究所 コーディネーター
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科



5) プログラム

<ご講演／質疑応答／意見交換会>

山川勇一郎様

山川勇一郎様には、「NPOホールアースの活動から見た被災地の現状」をテーマに、被災地緊急支援活動として福島県いわき市を訪問、活動された際の被災地の現状と現地の人たちとの関わり合い、活動の様子について詳細にお話いただきました。山川様の「被災地の人からいつの間にか自分たちが元気をもらっていた」という言葉が非常に印象的で、被災者の皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、現場に合わせた支援を実践されていると感じました。また、支援のフェーズもモノからヒトへと移行しているという現状もお伝えいただき、今後の被災地支援を計画する上での参考になるご意見をいただきました。



澤井史郎先生

そして、山川様を通じて、福島の避難所のひとつとなっているいわき市立湯本第二中学校校長、澤井先生のご講演が実現しました。澤井先生には「避難所の今とこれから」をテーマに、地震発生からこれまでに至る避難所（湯本第二中学校）の道のりと、今後の展望についてご講演いただきました。地震発生当時からの避難所の運営に関するお話は臨場感にあふれ、現場にとって今本当に何が必要なのか、訴えてくださいました。また、ボランティア活動に関するアドバイスもいただき、参加者の方からは、今後の被災地活動の参考になったという声を数多くいただきました。



<物資回収>

OSUSOWAKE DIALOGUE当日、物資回収も同時に行いました。物資について、より被災地の方にとってタイムリーかつ必要なものをOSUSOWAKEしたいという思いから、山川様を通じて緊急性の高い物資を現地に送ることになりました。今回の物資の送り先は福島県いわき市です。

【回収した物資】

おむつ、尿取りパット、下着、ウェットティッシュ、コーヒー、紅茶、ハンドクリーム、化粧品、マット



6) 成果と今後

ゲストのお二人からいただいた言葉が深く心にきざまれました。実際に被災地で活動されていらっしゃる方の「現場の声」は非常に力強く、テレビや新聞などのメディアだけでは分らなかった被災地の様子が明らかになりました。また、今後自分たちに何ができるのかをより具体的に検討できる良い機会となったと振り返ります。今後について、今回の会の開催に終わらず、継続してOSUSOWAKE DIALOGUEを実践していきたいです。引き続き、OSUSOWAKE物資の支援も続けていく予定で、現場に必要な情報や物資について、タイムリーに支援者とのマッチングを行う予定です。このたび、OSUSOWAKE DIALOGUEにご参加いただきました皆様、企画の段階からアドバイスをいただきました山川様、そして、このたびの会のために福島よりお越しいただきました澤井校長先生に、心より御礼申し上げます。最後に、シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金のご支援のおかげで、無事に東日本大震災支援企画「OSUSOWAKEDIALOGUE」を開催できましたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。